Katsushika City Museum

博物館だより

葛飾区郷土と天文の博物館　Katsushika City Museum

No. 103

金環日食を観察しよう！

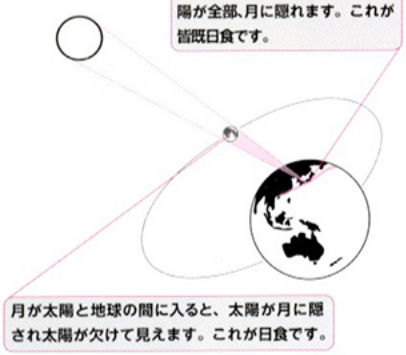
5月21日に「金環日食」をみることができるのをご存知ですか？
首都圏近郊で「金環日食」を見ることができるのは、1839年9月8日（江戸時代）以来、173年ぶり。次回、首都圏近郊から「金環日食」を見ることができるのは、なんと2312年4月8日、300年後です。
一生に一度、見られるか見られないかという珍しい金環日食をお見逃しなく！

金環日食の基本情報（東京）

日にち	平成24年5月21日
欠け始め	6時19分6秒
金環状態	7時32分～7時37分
欠け終り	9時2分38秒
方位・角度	東の空　約20度～約50度

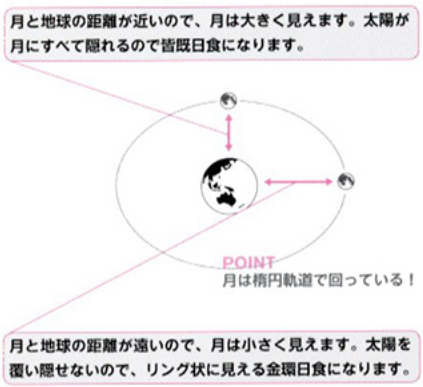
部分日食、皆既日食、金環日食

「日食」とは、月が太陽と地球の間に入り、月が太陽を隠すことでおこる現象。この時、太陽が月に全部隠れる時を「皆既日食」、一部太陽が欠けているように見える時を「部分日食」といいます。



今回の「金環日食」は、地球と月の距離が遠くなり、月の見かけの大きさが太陽よりも小さく見え、太陽を隠しきれず細いリング状に見える時のことをいいます。

月の見かけの大きさが変わるのは、太陽の周りを回る地球も、地球の周りを回る月も楕円軌道で回っているからです。



金環日食観察 Q&A

Q 日食はいつ見られるの？

A 5月21日(月)午前6時～9時頃にかけて（詳しくは上の表を参照）。太陽が昇ってくる時間なので、なるべく東の空がひらけたところで見てくださいね。

Q 日食についてもっと知りたい？

A 郷土と天文の博物館プラネタリウムでは、3月3日（土）から日食の番組を投映。普段は体験できない、宇宙から見た日食の様子など体験して、日食の仕組みなどをもっとよく理解してもらえます。どうして、新月のたびに日食にならないの？ 皆既日食と金環日食のしくみは？日食のときに宇宙から地球を見たらどうなっているの？ そんな**疑問も全て解決して、金環日食を2倍楽みましょう！**

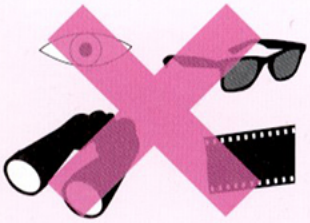
「東京で日食！」
3月3日(土)～5月27日(日)まで、毎週土曜（17:30）日曜・祝日(16:00)に投映。

Q 博物館で日食観察できますか？

A 郷土と天文の博物館では、日食当日に、申込制の日食観察会を計画しています。太陽望遠鏡で大きく映し出される大きく欠けた太陽を見たり、屋上で一緒に金環日食の瞬間を迎える予定です。
詳しくは4月になりましたら、広報「かつしか」、博物館ウェブサイトでご案内します。
なお、当日はお申し込みのない方の入館はできませんのでご了承ください。

Q 肉眼で見ると危ないですよね？

A はい。太陽は肉眼で見ると数秒でも目を痛め、「日食網膜症」や最悪の場合、失明の危険性もあります。**絶対にやってはいけません。**
また、直接望遠鏡や双眼鏡で覗いたり、サングラスや色つきの下敷き、フィルムの切れ端などでも**同様に失明の恐れがあります。**



Q 日食の安全な観察方法は？

A 直接日食を見るには、**専用の「日食メガネ」**を使ってください。（でも日食メガネを用いて望遠鏡や双眼鏡を覗く行為も大変危険なので、絶対にやらないでください）。

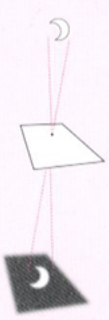
Q 日食メガネはどこで買えるの？

A 日食メガネは、様々な形のものが販売されていますが、**郷土と天文の博物館でもカード型日食メガネを3月3日（土）から販売します。**値段は1つ150円。ペットボトルのジュースとほぼ同じ大変お手頃なお値段です。

Q 他に安全な観測方法は？

A 日食メガネの他にも、安全な観測方法として以下の方法があります。

ピンホールを利用する
厚紙など光を通さない薄いシートに小さな穴を開けて、日食中の太陽の光を当てます。すると、穴を通って影の中に映った太陽の光が、欠けた太陽の形になっているのが観察できます。



木漏れ日を見る
木もれ日も、ピンホールと同じ原理で、葉の間を通ったそれぞれの光が太陽の形になります。

区制施行80周年記念企画展

平櫛田中とかつしか

HIRAKUSHI DENCHU

近代彫刻の巨匠、平櫛田中。

平櫛田中は、昭和14年（1939年）に葛飾区のお花茶屋駅に程近い本田宝木塚町にアトリエを構え、幾多の名作を生みだしました。東京国立劇場のロビーに展示されている「鏡獅子」の大像は、代表作であり、日本の近代木彫の最高傑作と多くの方から称賛されています。本展では、20点余りの多彩な彫刻作品をはじめ、書や手紙、写真などを展示し、田中芸術と田中の人となりや葛飾区にあったアトリエの様子なども紹介いたします。

会期　平成24年5月26日（土）～6月17日（日）

会場　葛飾区郷土と天文の博物館特別企画展示室ほか

楠公（なんこう）

木彫彩色　昭和29年頃（1954年）

小平市平櫛田中彫刻美術館蔵

南北朝の武将、楠木正成の彫像です。正成は、後醍醐天皇が鎌倉幕府打倒の兵を挙げると、これに加わり、赤坂城や千早城に籠って幕府軍相手に奮戦しました。倒幕後、新政府に反した足利尊氏らの軍と兵庫の湊川で戦い、自害しました。昭和29年、田中はこの正成を祀る湊川神社に、正成の像「大楠公」を納めています。本像はそれを小さくして作ったものです。

気楽坊（きらくぼう）

木彫彩色　昭和38年（1963年）

小平市平櫛田中彫刻美術館蔵

後水尾天皇は、自らが命じて作らせた指人形を気楽坊と名づけ、心の慰めにしていたといわれています。後水尾天皇は、寛永４年（1627年）の紫衣事件を機に退位しましたが、徳川秀忠の娘との政略結婚を不満としていたと伝えられ、御製の歌「世の中は気楽に暮せ何ごとも思へば思ふ思はねばこそ」にその名の由来を見ることができます。近衛家に伝わる指人形を見た田中は、それを参考に、昭和29年にテラコッタで初めて制作したといわれ、その後もさまざまな姿の気楽坊を制作しています。

鏡獅子（かがみじし）

木彫彩色　昭和33年（1958年）

岡山県立美術館蔵

鏡獅子は歌舞伎舞踊「春興鏡獅子」の略称。前段は、江戸城の大奥で行われる正月の鏡曳きに、小姓の弥生が舞いを所望され披露します。弥生が飾られていた獅子頭を手にして舞うと、獅子の精が弥生に乗り移り、手もとの獅子に導かれるように花道へと姿を消していきます。後段は、花道から能衣装に歌舞伎式隈取の顔で獅子が現れ、白いたてがみを振り乱しながら勇壮な舞いを披露します。前段の弥生の可憐な舞いと、後段の獅子の荒々しい舞いという、対照的な構成を成す新歌舞伎十八番の一つです。

九代目市川団十郎によって創案され、六代目尾上菊五郎によって、絢爛たる出し物として完成されました。昭和12年、歌舞伎座に鏡獅子がかかった時、田中は25日間通い続け、たえず場所を変えて観察し、六代目と相談してこのポーズを決めたといわれています。

五浦釣人（いづら（ごほ）ちょうじん）

木彫　昭和37年（1962年）

茨城大学五浦美術文化研究提供

この像は、茨城県五浦海岸で毛皮のマントを肩に掛け右手に釣り竿を持つ岡倉天心を撮影した写真をもとに制作されたものです。田中は、岡倉天心を心から尊敬し、生涯師として仰ぎました。天心亡き後も、追慕の思いはあせることはなく、本作品をはじめ異なったポーズの天心像を何体も制作しています。作品名は、地名の読みから「いづらちょうじん」と呼ばれることがありますが、田中は「ごほちょうじん」と音読みしていました。写真は、葛飾で制作された五浦美術文化研究所蔵の大像ですが、本展示では東京藝術大学美術館所蔵の作品を展示します。

講演会
イベント

会期中に、2回の記念講演のほか、葛飾平櫛田中研究会のご協力をいただき小平市平櫛田中彫刻美術館への見学ツアーや展示解説などを開催する予定です。詳しい内容は「広報かつしか」「博物館ウェブサイト」等に掲載いたしますので、ご確認ください。

宝木塚町（現宝町二丁目）に在ったアトリエ

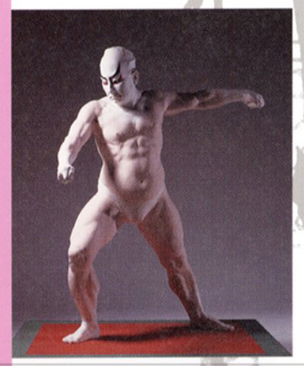
平櫛弘子氏提供

昭和56年（1981年）に撮影された写真で、現在は駐車場になっています。このアトリエで鏡獅子などの大作が制作されました。

西山遺遡（せいざんしょうよう）

木彫彩色　昭和37年（1962年）　岡山県立美術館蔵

杖を片手に、遠くを見据える様をあらわした水戸黄門の名で知られる二代水戸藩主水戸光圀の彫像です。黄門は、水戸西山の梅林に居を構えたことから「西山公」とも呼ばれました。兵庫県の湊川神社の境内に建立されたブロンズ像が先に制作されましたが、その原型を用いて木彫が仕上げられたものです。



鏡獅子試作裸像（かがみじししさくらぞう）

木彫彩色　昭和33年（1958年）

早稲田大学坪内博士記念演劇博物館蔵

六代目尾上菊五郎は、九代目市川団十郎に踊りを習うのに裸で教わり、自分も弟子に裸で教えたといわれています。裸で踊りの練習をすることで、衣裳の上からでは見えない、筋肉、骨格の動きなどが観察できたからです。田中は「鏡獅子」の制作にあたり、まず粘土で原型をつくり、それから木彫へと進みましたが、その過程でこのような裸体の試作を作成しています。

平櫛田中

ひらくし・でんちゅう（1872～1979）

彫刻家。明治5年（1872年）に現在の岡山県井原市の田中家に生まれ、明治15年（1882年）に広島県福山市の平櫛家の養子となる。本名、倬太郎。大阪の小間物問屋に奉公した後、同地で人形師・中谷省古のもとで木彫の手ほどきを受け、25歳で上京。高村光雲門下の米原雲海や山崎朝雲の仕事を見ながら彫刻を独習。高僧西山禾山と美術界の指導者岡倉天心の二人に出会い、その教えを感得したことで田中芸術は大きく飛躍しました。代表作に「鏡獅子」「尋牛」「烏有先生」「転生」「五浦釣人」などの作品があります。田中は、東京美術学校・後の東京藝術大学の教授を8年間勤め、その教室からは優れた彫刻家が幾人も輩出しました。また、「いまやらねば　いつできる…」「六十七十ははなたれこぞう…」と揮毫された書なども広く知られ、100歳になってなお彫刻用材を大量に購入したりと、意気軒昂な生きざまが今なお人々に感動を与えています。昭和37年文化勲章を受章。昭和54年107歳の天寿を全うしました。

上の写真は、葛飾のアトリエで鑿をふるう平櫛田中（86歳）。**小平市平櫛田中彫刻美術館提供**

葛飾区郷土と天文の博物館ご利用案内

開館時間

午前9時～午後5時

（金・土曜日は午後9時まで開館。ただし金・土曜日が祝日の場合、午後5時に閉館。入館は閉館の30分前まで）

休館日

月曜日、第2・4火曜日

（月曜祝日は開館。火曜祝日は開館し翌日休館）

入館料

大人 100円　小・中学生 50円　小学生未満無料

（毎週土曜日は中学生以下無料。20人以上の団体は2割引）

プラネタリウム観覧料

大人 350円　小・中学生 100円　小学生未満 50円

（毎週土曜日は中学生以下無料。20人以上の団体は2割引）

年間パスポート

大人 2000円　中学生以下 700円

購入から1年間、入館とプラネタリウムが見放題になる大変お得なパスポートです。購入時にご希望があれば、当館からのおたよりを1年間お送りします。

博物館だより

発行日　2012年3月1日

発行　葛飾区郷土と天文の博物館

〒125 - 0063

東京都葛飾区白鳥 3 - 25 - 1

電話：03 - 3838 - 1101

FAX ：03 - 5680 - 0849

Web：http://www.museum.city.katsushika.lg.jp/